



六郷中だより

六郷中学校だより 第13号
令和 3年12月 7日
発行・文責：校長 深澤裕治



節目となる花火に！

月日がたつのは早いもので、2学期の終業式まで2週間余りとなりました。先週、生徒にとっては、今学期の学習の成果を確認し、指導する私ども教職員にとっては、指導の是非を自己評価する、2学期末テストが行われました。そして、来週には、2学期の学習や学校生活の生徒一人ひとりの頑張りについて振り返りこれからの目指すべき目標につなげていく、保護者の皆さんと生徒との三者懇談を予定しています。よろしくお願いたします。

さて、今から3ヶ月半ほど前。夏休みが終了し、2学期が始まろうとしていた8月下旬。日本中そして山梨県においても、新型コロナウイルスの感染者が、第5波のピークとして過去最高の新規感染者数を記録しました（※8/20の一日の感染者数…国内25,995人、県内103人）。2学期のスタートをひかえての新規感染者の急増は、まもなく開催される桜樹祭（学園祭）の準備・開催に向けて、生徒のみならず学校運営に対しても、解決しがたい課題として、大きく立ちはだかりました。そこで、苦渋の決断をしたのが、安心・安全な桜樹祭に向けて、少しでも感染者の減少を期待しての開催期日の延期、ならびに開催規模の縮小と参観者の制限でした。

当然、計画や準備していたことが急遽できなくなりましたので、生徒たちに取組の意欲がしぼんでしまうことも予想されました。しかし、取組の開始にあたって、リーダーからは、限られた中でも最善を尽くそうと呼びかけがなされ、例年どおりの取組が再始動し、桜樹祭の当日を迎えました。その逆境を乗り越えようとする生徒たちの意欲と頑張りに対して、校長として生徒たちに伝えたのが「桜樹祭で打ち上げを断念した花火を、コロナが収束したら、必ず打ち上げます」といった約束でした。

きっと、生徒たちの願いが通じたのかもしれませんが。2学期の折り返しとなった11月になると、県内の感染者は、ほぼ毎日、確認されない日が続くようになりました。生徒の下校の安全も考慮する中で、日の入りの最も早い時期の12月上旬に、花火の打ち上げを決定し、ついに生徒たちとの約束を先日果たすことができました。

花火の打ち上げに先立ち、校長として、次のことを生徒たちに話しました。

今から、地域の方々にご協力いただき打ち上げていただきます。まずは、打ち上げていただくことに、心から感謝しましょう。

3年生の皆さん。桜樹祭の中心になり、限られた条件の中で、盛り上げてきた努力と頑張り、ご苦労様。今日は、その集大成です。思う存分、自分たちの学園祭のしめくくりとして楽しみましょう。そして、これからは自分自身の進路の実現に向けて、頑張っていくエネルギーにつなげていってください。

次に、2年生の皆さん。これからは六郷中学校の新しいリーダーとなって活躍してもらいます。ぜひ、今日の花火をきっかけに、大きく輝いていくスタートにしてください。

そして1年生。いよいよ来年は、六郷中学校の中堅、中核、実働部隊として、活躍してもらいます。持てる力を仲間のため、そばにいる人のために発揮してください。

感謝と希望と期待を込めて、今日の花火が全校生徒のこれからの活躍の節目となるよう期待しています。

コロナの感染者数が予想以上に減少したため、桜樹祭の最後を飾る花火を3ヶ月遅れで実施することができました。花火の打ち上げに際しては、ご家庭や地域の方々のアルミ缶の収集に多大なご協力をいただきながら、今まで10年間、続けてこられた六郷中学校の生徒会の取組です。改めまして、ご家庭ならびに地域の皆様方のご理解とご協力に感謝申し上げます。

